BOSE®

OWNER'S MANUAL

バイフェイシアル スピーカー システム

901SS

このたびは901SSをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本機を正しくお使いいただくため、ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、この取扱説明書は必要なときにご覧になれるよう保管しておいてください。

目　次

901SS 取扱説明書

※説明の便宜上、イラストは原形と異なる場合があります。

安全上の留意項目

ご使用前に、この「安全上の留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。
以下の内容に反した使用により損害が発生した場合、当社は責任を負いかねます。

絵表示について

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

△記号は警告・注意を促す内容があることを告げるものです。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです（左図の場合は分解禁止を意味します）。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

警告	電源プラグをコンセントから抜け	●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。 ●万一内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 ●万一内部に異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	△	●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	水場での使用禁止	●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
	使用禁止	●雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。
	⃠	●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。 ●この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。 ●この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。
	●	●万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	⃠	通風孔のある機器のみ ●この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。 この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪いところに押し込む。 テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。
	△	●この機器を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。
	⃠	●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて火災・感電の原因となります。 ●この機器の通風孔、カセットテープの挿入口、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。 ●この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

警告

分解禁止

●この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

●この機器は改造しないでください。火災・感電の原因となります。

●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加工したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

ACアウトレット（電源コンセント）付き機器のみ

●この機器のACアウトレットが供給できる電力は背面パネルに表示されております。接続する装置の消費電力の合計が表示されてるW（容量）を超えないようにしてください。火災の原因となります。電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力以内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器などは、接続しないでください。

●スピーカーコードの上に重いものをのせたり、コードが製品の下敷きにならないようにしてください。また、壁や棚などの間にはさみ込んだりしないでください。スピーカーコードを傷つけて火災の原因となります。

●スピーカー内部に金属片や異物などを落とさないでください。ショートや発熱などを起こし、火災の原因となります。

●スピーカーコードを熱器具や白熱灯の近く、直射日光のあたるところには近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災の原因となります。

●スピーカーコードを人が通るところなど引っ掛かりやすい場所に這わせないでください。つまずいて転倒したり、スピーカーが落下し、けがや事故の原因となります。

●<本製品>を分解したり改造しないでください。破損や火災の原因となります。

●熱器具や白熱灯の近く、直射日光のあたるところには設置しないでください。そのような場所で使用しますと、火災の原因となります。

注意

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

●電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

●窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災・感電の原因となることがあります。

●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。

電池を使用する機器のみ

●電池を機器内に挿入する場合、極性表示プラス ＋ とマイナス － の向きに注意し、表示通りにいれてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

●旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

●お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

●5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長時間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

●アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

※送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げ過ぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

●ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所は避けて置いてください。また、設置場所の強度は重みに耐えられるものにしてください。落下して、けがや事故の原因となります。

●スピーカーを高いところに設置される場合には、作業が不安定になりますので作業には十分ご注意ください。けがや事故の原因となります。

●定格を超える入力を入れた状態や長時間音が歪んだ状態で使用しないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

●高いところに設置される場合には、不意な衝撃に対して落下しないよう固定してください。固定しないまま使用しますと、落下し、けがや事故の原因となります。

●取付金具をご使用になる場合は、ご使用になるスピーカーに対応しているボーズ社製の金具をご使用ください。他メーカーの金具や、対応外の金具を使用するとスピーカーの破損や落下のおそれがあります。

はじめに

BOSE 901SS(Saloon Spectrum：サルーン・スペクトラム)をお買い上げいただきありがとうございます。ボーズ・コーポレーションは、アメリカの近代科学、つまり宇宙工学、原子物理学、そして遺伝子工学にいたるアメリカン・サイエンスの中枢といわれるマサチューセッツ工科大学(MIT)を母体に生まれました。音の再生手段としてのスピーカーを物理的に解明し、その再生音エネルギーと原音との差異を人間の感性がどう受け止めるか、というテーマのもとに集まったMITの科学者達と、この研究に持てる聴感を提供した多くの音楽家達の集まり、いわば科学と感性の集団がボーズ・コーポレーションです。

ボーズのすべてのスピーカーシステムはこれらの人々によって集積されたテクノロジーとノウハウに基づいて開発製造されたものです。

スピーカー部

901サルーン・スペクトラム(Saloon Spectrum)について

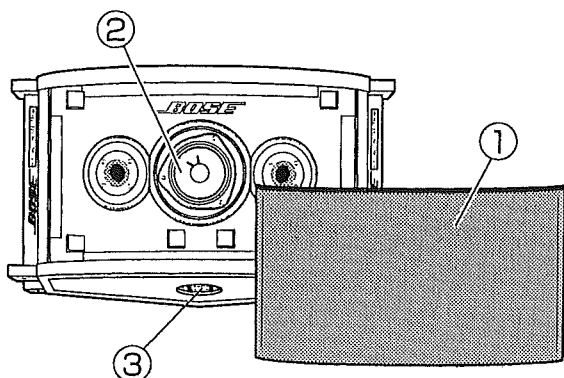
901サルーン・スペクトラムは、すでに世界的にその真価を認められている901シリーズスピーカーに、あらゆるサイズの空間への対応性をプラスしたボーズ·スピーカーシステムの最高峰モデルです。

演奏会場で音楽を聴く場合、楽器から直接耳に届く音はごく僅かであり、大部分は囲りに反射して聴こえる間接音です。ボーズはこの現象をDIRECT/REFLECTING(ダイレクト・リフレクティング)というシステムでスピーカーに導入、比較的小空間といえる一般家庭でコンサートホールの音場の再現を可能にしました。これがモデル901シリーズです。

空間が広がるに従い、音響条件は演奏会場のそれに近づきます。ホテルの大広間、ライブハウス、会議場といった人の多く集まるスペースでは、間接音成分のエネルギーをわざわざスピーカーから放射する必要が少なくなり、むしろ音の方向性、拡散度が問題になります。一般にいうプロ用スピーカーシステムがそれです。ボーズはモデル802スピーカーシステムで、束縛のない空間の音響を克服して、プロの厳しい要求に応えています。

901サルーン・スペクトラムには、モデル901シリーズと802プロスピーカーシステムを生んだ2つの独創的技術が融合されています。DIRECT/REFLECT方式では、901シリーズの仕様をそのまま継承して小空間でリアルな音場を再現。Saloon Spectrum方式で直射型スピーカー、モデル802の特性を余すことなく発揮します。ひと組のスピーカーであらゆる大きさの空間に対応するBifacial※思想を持つ、世界唯一のスピーカーシステムです。

※Bifacial〔バイフェイシアル〕双面の。正面が2つある。

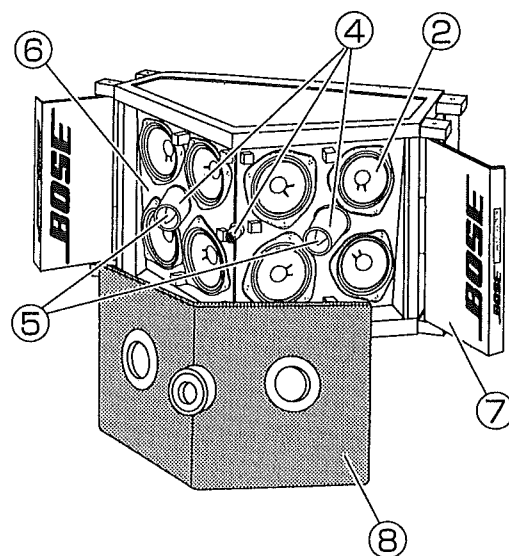
スピーカーの構造と各部の名称

①フロント・グリル
湾曲した黒サランネット張りハードボードです。

②11.5cmアルミエッジワイズ巻きフルレンジドライバー
ローレベル時のリニアリティー特性を悪化させることなく高耐入力特性を実現しています。

③スピーカー・ターミナル
9ユニットのスピーカーが全てシリーズに接続され、⊕、⊖の2端子で入力インピーダンスは8Ωです。

④リアクティブエアコラム
ドライバーユニット背面の空気圧を最適に調整し、コーン紙のエクスカーションを抑えています。

⑤フローコントーロールコア
リアクティブエアコラムの中央に配置してあり、乱気流の発生を抑えています。

⑥アコースティック・マトリックス
サルーン・スペクトラム側に8ヶのフルレンジ・スピーカーが4ヶづつV字面に130°の角度で配置され、各対角線中心3ヶ所にリアクティブエアコラムが出ています。ダイレクト・リフレクティング側には1ヶのフルレンジドライバーが配されています。本体は内部に9つの小空間を持つモノコックボディです。各空間は、そこに配置させたそれぞれのスピーカーを、均一に動作させるために1000分の1オーダーの精度で複雑な形状になっています。

⑦サウンド・リフレクター
両サイドにBOSEの文字の入ったスチールプレートの羽根があります。この羽根は前後、最大角180°の回転調整ができます。これによりサルーン・スペクトラム使用時の音響放射特性をコントロールします。
※ダイレクト・リフレクティング方式でご使用になる場合はたたんだ状態で使用してください。

⑧サルーン・スペクトラム・グリル
V字型の黒サラン・ネット張り、ハードフレームで面中央左右に2ヶ、中心陵線上に1ヶ、リアクティブエアコラム用の穴があいており、プラスティックのトリム・リングがついています。裏に12ヶ所、ベルクロスファスナー(マジッククロス)が貼布されており、これにより着脱可能になっています。左右端のみ各2～3mm本体の溝に入って固定されています。

スピーカーの設置方式

901サルーン・スペクトラムには基本的に二つの設置方式があります。部屋のスペース、音響条件に合わせて選んでください。

◆ダイレクト・リフレクティング(Direct Reflecting)方式◆

スピーカーの設置場所の目安

①背面の先端からスピーカー背後の壁までの間隔は20cm～60cm位になるようにします。

②スピーカーと脇の壁との間隔は、45cm～1.2m位になるようにします。

③スピーカーの高さは、45cm～90cm位になるように設置してください。

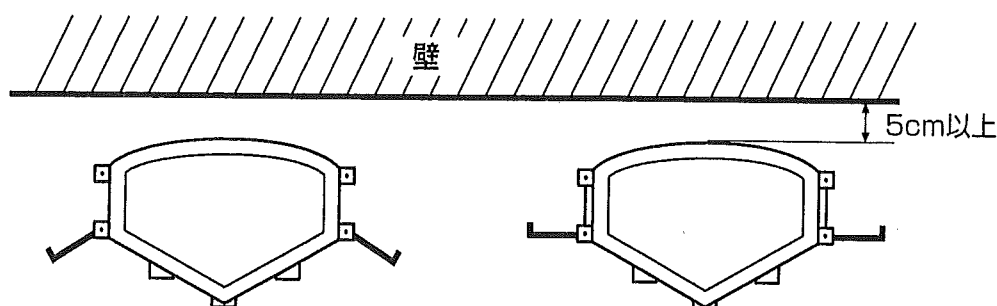
※スピーカーの高さが天井と床の中央にならないようにご注意ください。低音に対して影響がでる場合があります。

④左右のスピーカーの間隔は、1.2m～3.6m位離します。

※左記の距離は、あくまでも推奨例です。リスニングルームの状況によって、必ずしも推奨値にならなくても十分満足できる音が再生できる場合もあります。また、逆に、たとえ推奨値内であってもリスニングルーム内の形状、材質等によって十分な性能が発揮できない場合もございます。リスニングルームにあわせて置き方を工夫されて置き方による音の変化をご確認いただき、十分満足の行く設置場所をお探しください。

※サウンドリフレクターは閉じたままでご使用ください。

◆サルーン・スペクトラム(Saloon Spectrum)方式◆

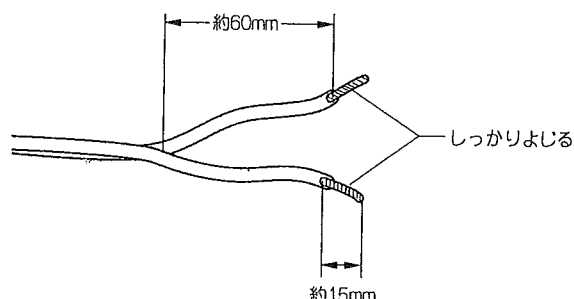
人の多く集まるホール、広間、その他の店内等、または直接放射音を聴きたい場合は、この設置方式をとってください。この場合は、壁からの空間は5cm程度とれば十分です。必要に応じて製品を縦、横自在に設置できますが、家庭ではオーソドックスに横設置をおすすめします。

サウンド・リフレクターは
適当に開いて調整をします。

◆取付金具を使用する場合◆

スピーカー底面にM8のナットが埋込まれていますで、このナットを使用して取付金具を取り付けます。

スピーカーの接続の準備

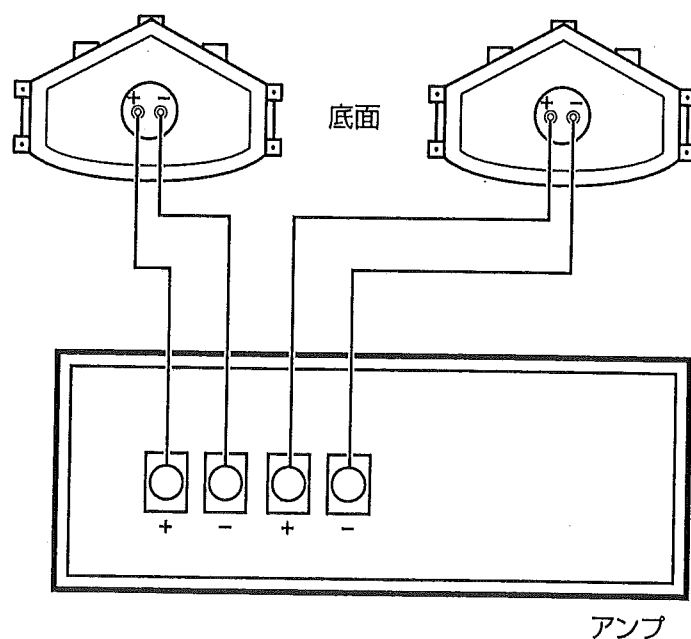
●アンプとスピーカーを接続するケーブルの抵抗成分が大きいと、再生される音の色付きや、途中のケーブルでのパワーロスが生じます。音の色付きや、ケーブルでのパワーロスを防ぐためになるべくスピーカーとアンプを接続するケーブルは、短く、適切なケーブルで行うように心掛けてください。

●スピーカーケーブルは、下図のように先端の被服をむいておきます。

スピーカーとアンプの結線について

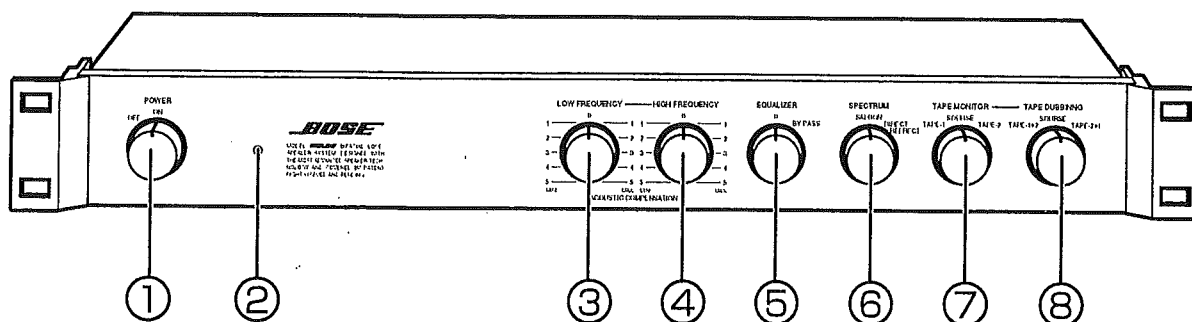
スピーカーとアンプを接続するときは、必ずアンプの電源を切ってから行ってください。

901 サルーン・スペクトラムのスピーカー・ターミナルは底面にあります。⊕、⊖の表示に従い、アンプの極性に合わせて結線してください。アンプとスピーカーは、普通に直結です。

●スピーカーの底面にあるスピーカーターミナルとアンプからのスピーカーケーブルを直接、接続してください。その時、スピーカーの⊕側端子とアンプの⊕側端子、スピーカーの⊖側端子とアンプの⊖側端子が間違いなく接続されているか確認してください。

※スピーカーケーブルの極性（⊕、⊖）を間違えますと、音の定位がフラついたり低音が出なくなったりします。間違えないようにご注意ください。

イコライザー部

ボーズ901シリーズのスピーカーには必ず専用イコライザーを使ってください。一般のグラフィック・イコライザー等の代用は音を劣化させます。どうしても使う必要がある場合は専用イコライザーと併用してください。

イコライザーの機能と各部の名称

①電源スイッチ

ロータリー式の電源スイッチで“ON”状態で電源表示ランプが赤に点灯し通電状態となります。

②電源表示ランプ

電源“ON”で赤色に点灯します。電源が通電状態(電源スイッチが“ON”状態)の時に点灯します。

③低域調整ノブ

部屋の音響特性は、千差万別です。人間の指紋に匹敵する多様性があります。ひとつのスピーカが調整なしでAの部屋とBの部屋で同じ音色、音質を出す確率は極めて低いわけです。加えて聴く側の聴感上の周波数特性にも個人差があります。このようなことから、音響機器、特にスピーカーについては、調整機能が不可欠な要素になるわけです。低域の調整は第一に部屋の持つ定在波を離調するために必要です。低域が過剰にならないポイントを探しながら調整してください。自分の聴き馴れた音源の中で低域成分の多い部分を再生しながら調整することをおすすめします。

④高域調整ノブ

指向性の強い高域エネルギーは部屋のレイアウトその他に敏感に反応します。自分の聴き馴れた音源の、高域成分の多い部分を再生しながら調整してください。

⑤バイパス・スイッチ

通常は“N”の位置(イコライザーを通っている状態)で使用します。“BY-PASS”の位置でイコライザーがキャンセルされます。901SS以外のスピーカーを使用するときにこの位置に合わせてください。

※キャンセルのままでBOSE901SSを使用することは、絶対にしないでください。スピーカー本来の性能が発揮できません。

⑥スピーカー設置方式切替スイッチ (Spectrumスイッチ)

Spectrumと表示してあるスイッチです。"SALOON"の位置でサルーン・スペクトラム方式の特性が与えられます。スピーカーはサルーン・スペクトラム・グリルを前面に向けてください。

スイッチを"DIRECT REFLECT"の位置にするとダイレクト・リフレクティング方式のイコライザー特性が与えられます。この場合、スピーカーはフロント・グリルを前面に向けてください。

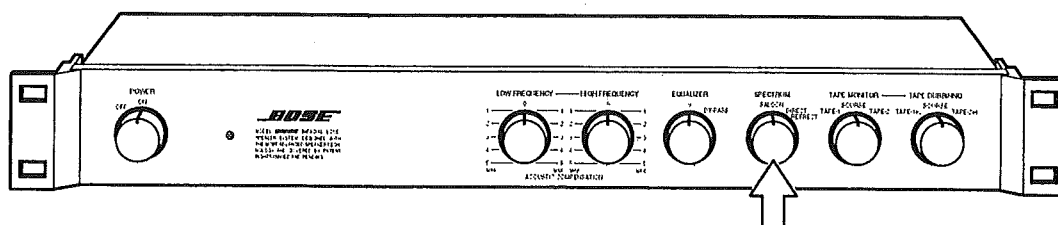
⑦テープモニター・スイッチ

外部の信号源からイコライザーに入る入力端子の切り替えです。通常はソースにし、プリアンプ等からの信号を通しておりますが、切り替えてテープ1、2を選択できます。

⑧テープダビング・スイッチ

"SOURCE"の位置では、イコライザーの入力信号がTAPE1、TAPE2両方のOUTPUT端子に出ています。TAPE1、TAPE2端子につながれた2台のテープレコーダーに同時録音が可能です。"TAPE1▶2"の位置ではTAPE1につながれたテープレコーダーの信号がTAPE2につながれたテープレコーダーに流れてダビングできます。"TAPE2▶1"はその流れが逆になり、TAPE2からTAPE1に流れます。

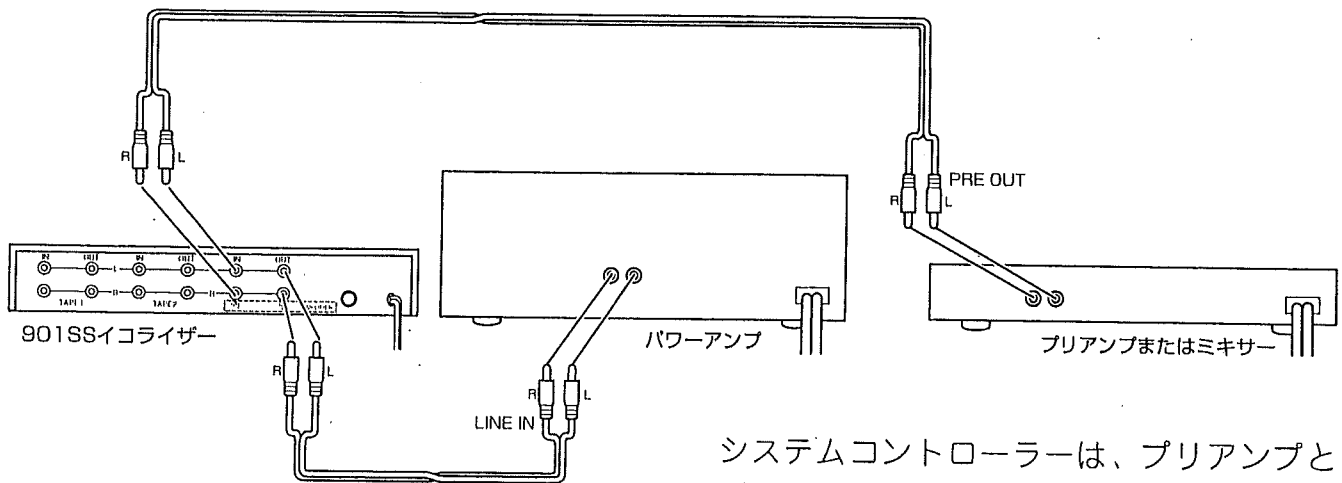
901SS イコライザーの設置

ご使用になる時は、まず始めにイコライザーの ⑥スピーカーの設置方法切替えスイッチを設置方法に合わせてください。

◆オーディオ機器と接続◆

お手持ちのシステムが(アンプ)次のうちのどのタイプになるかを確認して、それぞれのタイプの接続方法と使用方法をご覧ください。

お手持ちのシステム	901SSを再生するために必要な機能	項　目	ページ
セパレートアンプ またはミキサー		A セパレートアンプの場合	11
プリメインアンプ	・プロセッサー入出力(send、return)端子を装備しているタイプ ・シグナルプロセッサー入出力(send、return)端子を装備しているタイプ ・エフェクター入出力(send、return)端子を装備しているタイプ ・アダプター入出力(send、return)端子を装備しているタイプ ・グラフィックイコライザー入出力(send、return)端子を装備しているタイプ ・プリ部分とパワー部分を切り離して使用できるタイプ	B-1 プリメインアンプとの接続 1	12
	上記の機能がないものでTAPE REC セレクターとソース(入力)セレクターが別々になっている場合	B-2 プリメインアンプとの接続 2	13
AVアンプ	フロントとリアが独立したイコライザー接続端子をもっているタイプ	C AVアンプの場合	14

A セパレートアンプの場合 オーディオ機器との接続

※すべての接続が終わるまでは、電源コードをコンセントに差し込まないようにしてください。

システムコントローラーは、プリアンプとパワーアンプの間に接続します。

使用方法

通常通り使用してください。

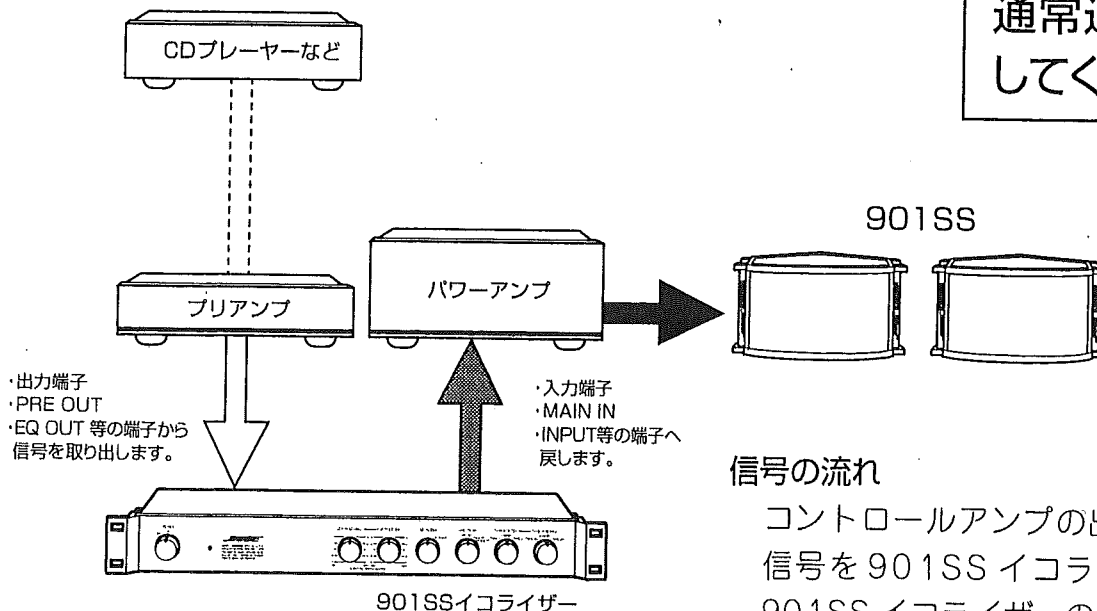
CDプレーヤーなど

プリアンプ

パワーアンプ

901SS

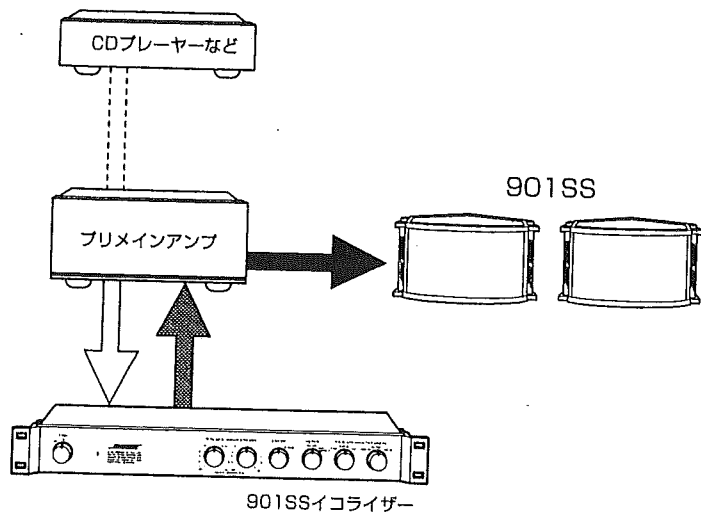
・出力端子
・PRE OUT
・EQ OUT 等の端子から
信号を取り出します。

・入力端子
・MAIN IN
・INPUT等の端子へ
戻します。

901SSイコライザー

信号の流れ

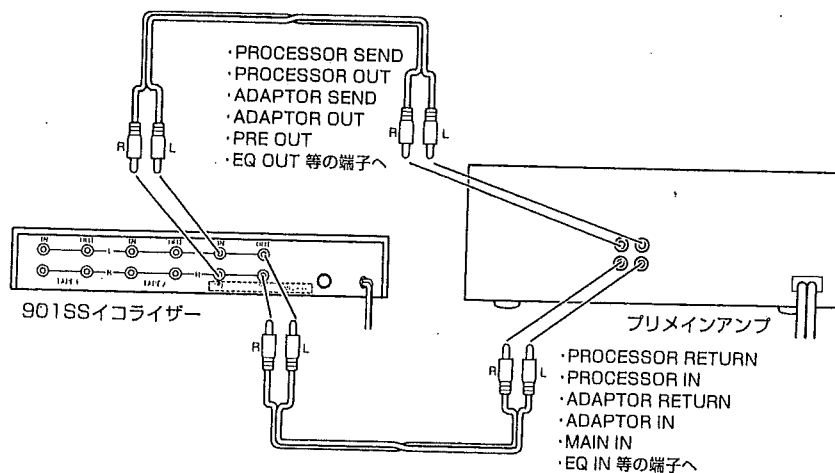
コントロールアンプの出力端子から出た信号を901SS イコライザーへ入力し、901SS イコライザーの出力をパワーアンプに入力します。

B-1 プリメインアンプとの接続 1 オーディオ機器との接続

※すべての接続が終わるまでは、電源コードをコンセントに差し込まないようにしてください。

信号の流れ

プリメインアンプから一度901SSイコライザーへ信号を送り、901SSイコライザーの出力を再びプリメインアンプにもどし、その信号をプリメインアンプのパワーアンプ部分で増幅して901SSをならします。

◆接続について◆

901SSイコライザーは、プリアンプのイコライザーアウト(センド)端子とイコライザーイン(リターン)端子の間に接続します。
901SSイコライザーの電源は、プリメインアンプのスイッチに連動するコンセントに接続することをお薦めします。

使用方法

接続に間違いがないことを確認してください。
プリメインアンプのフロントパネルにプロセッサー(アダプター)ON/OFFスイッチがある場合は、スイッチをONにしてプロセッサー(アダプター)が効くようにセットしてからご使用ください。

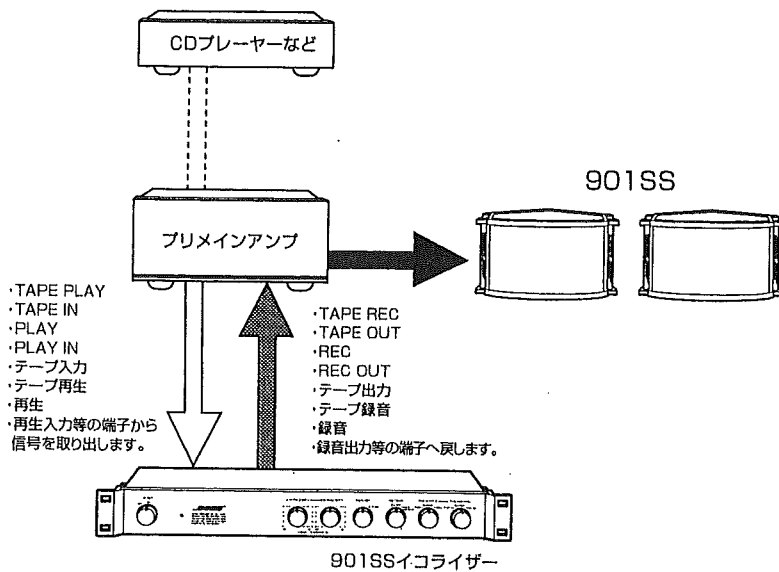
※901SSスピーカーと他のスピーカーをA、B切り替えスイッチで切り替えてお楽しみになる場合の注意

プリメインアンプで2系統のスピーカーが接続可能な場合(A、B)で、1つの系統に901SS、残りの系統に他のスピーカーを接続して、A、B切り替えスイッチなどで切り替えて901SS以外のスピーカーをならす場合は、必ずプリメインアンプのプロセッサー(アダプター)ON/OFFスイッチをOFFにするか901SSイコライザーのバイパス・スイッチを"BY-PASS"側にして901SSイコライザーが901SS以外のスピーカーにかからないようにしてください。イコライザーのかかった信号を901SS以外のスピーカーで再生するとスピーカーを破損させる原因になりますので、ご注意ください。

※ヘッドホンでお楽しみになる場合の注意

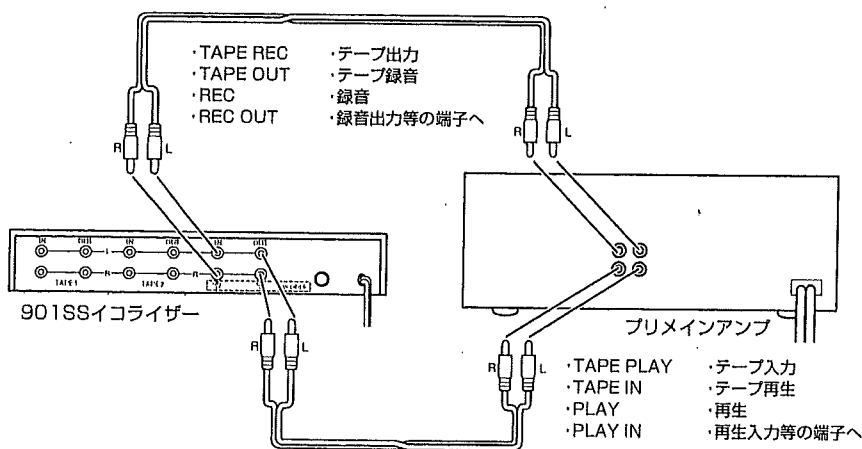
901SS以外のスピーカーをならす場合と同様に、必ずプリメインアンプのプロセッサー(アダプター)ON/OFFスイッチをOFFにするか901SSイコライザーのバイパス・スイッチを"BY-PASS"側にして901SSイコライザーがかからないようにしてください。イコライザーのかかった信号をヘッドホンで再生するとヘッドホンを破損させる原因になりますのでご注意ください。

B-2 プリメインアンプとの接続2 オーディオ機器との接続

※すべての接続が終わるまでは、電源コードをコンセントに差し込まないようにしてください。

信号の流れ

プリメインアンプのTAPE REC OUT端子から一度901SSイコライザーへ信号を送り、イコライザーの出力を再びTAPE PLAY端子にもどし、その信号をプリメインアンプのパワーアンプ部分で増幅して901SSをならします。

●接続について

システムコントローラーは、プリアンプのテープ録音出力端子とテープレイ端子の間に接続します。

使用方法

接続に間違いがないことを確認してください。
プリメインアンプのフロントパネルの録音セレクターでお聴きになりたい音源を選びます。次にテープモニタースイッチまたは、テーププレイスイッチで901SSイコライザーで接続したテープ端子側を選択します。

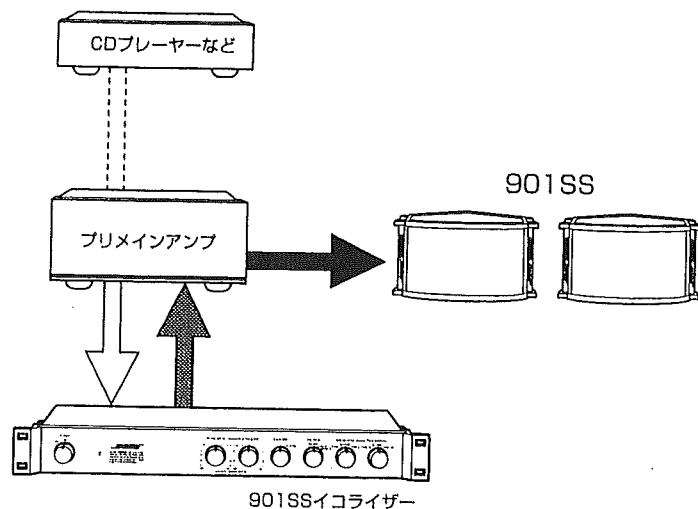
※ 901SSスピーカーと他のスピーカーをA、B切り替えスイッチで切り替えてお楽しみになる場合の注意

プリメインアンプで2系統のスピーカーが接続可能な場合(A、B)で、1つの系統に901SS、残りの系統に他のスピーカーを接続して、A、B切り替えスイッチなどで切り替えて901SS以外のスピーカーをならす場合は、必ずプリメインアンプのテープモニタースイッチまたは、テーププレイスイッチをOFFまたは、解除するか901SSイコライザーのバイパス・スイッチを"BY-PASS"側にして901SSイコライザーが901SS以外のスピーカーにかからないようにしてください。イコライザーのかかった信号を901SS以外のスピーカーで再生するとスピーカーを破損させる原因になりますので、ご注意ください。

※ヘッドホンでお楽しみになる場合の注意

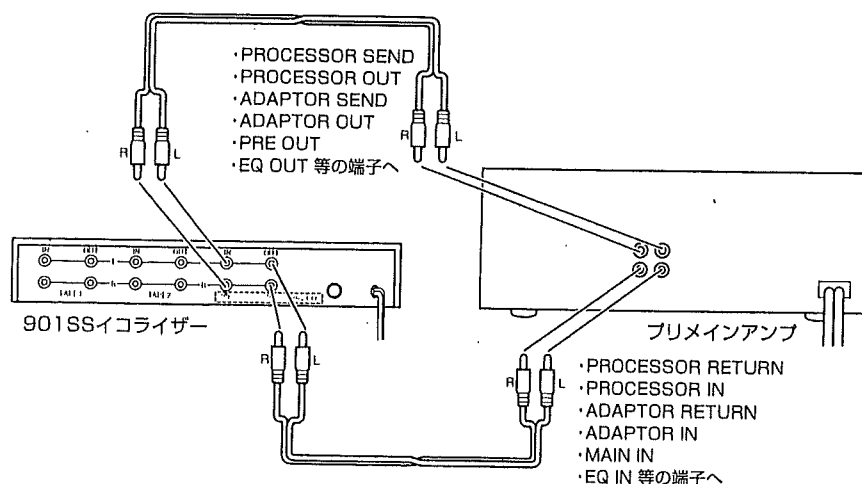
901SS以外のスピーカーをならす場合と同様に、必ずイコライザーを接続した側のテープモニタースイッチまたはテーププレイスイッチを切るか901SSイコライザーのバイパス・スイッチを"BY-PASS"側にして、901SSイコライザーがかからないようにしてください。イコライザーのかかった信号をヘッドホンで再生するとヘッドホンを破損させる原因になりますので、ご注意ください。

C AVアンプの場合 オーディオ機器との接続

※すべての接続が終わるまでは、電源コードをコンセントに差し込まないようにしてください。

信号の流れ

AVアンプのフロントエフェクトアウトから一度901SSイコライザーへ信号を送り、イコライザーの出力を再びフロントエフェクトインにもどし、その信号をAVアンプのパワーアンプ部分で増幅して901SSをならします。

●接続について

アクティブイコライザーは、フロント側のプリアウトとメインイン端子の間に接続します。

使用方法

接続に間違いがないことを確認してください。
通常通りにご使用ください。

※901SSをご使用になれないAVアンプについて

フロント(メイン)側とリア(サラウンド)側が独立して、(サウンド)プロセッサー、アダプターもしくは、グラフィックイコライザーを接続できない機種は、901SSイコライザーを接続して901SSをならすことはできません。また、(サウンド)プロセッサー、アダプターもしくは、グラフィックイコライザーが接続できる機種でもフロント側とリア側が独立していない場合は、フロントのメインスピーカーにイコライザーがかかるだけではなくリア側にもイコライザーがかかってしまうためサラウンドスピーカーに損傷を与える原因になります。このような機種には、901SSはご使用になれません。

※ヘッドホンでお楽しみになる場合の注意

901SS以外のスピーカーをならす場合と同様に、必ずプロセッサー(アダプター)ON/OFFスイッチをOFFにして901SSイコライザーがかからないようにしてください。イコライザーのかかった信号をヘッドホンで再生するとヘッドホンを破損させる原因になりますので、ご注意ください。

◆接続の確認◆

正しく接続されているかどうかをチェックします。下記の手順にしたがって確認してください。

A セパレートアンプの場合

① すべての機器の電源が切れていることを確認します。
② 接続に間違いがないか11ページを参照して確認してください。
③ 接続に間違いがないことを確認したら各機器の電源を入れます。このとき901SSイコライザーにテープデッキが接続されている場合は、アクティブイコライザーに接続されているデッキの電源は切れたままにしておいてください。
④ ステレオシステムを通常どおり動作させてみます。音源は、CDでも、チューナーでもかまいません。
⑤ アンプのBALANCE(バランス)コントロールを操作して、左右のチャンネルが正しく接続されていることを確認します。
⑥ 901SSイコライザーフロントパネルのテープモニタースイッチのつまみを回してテープのモードにします。このとき、音が出なくなり、もう一度テープモニタースイッチのつまみを回してSOURCEに切り替えて音が出ればイコライザーが正常に接続されています。
⑦ 以上でテスト終了です。問題がなければ通常どおりステレオシステムを操作してお楽しみください。

B-1 プリメインアンプ1（専用端子を使用）の場合

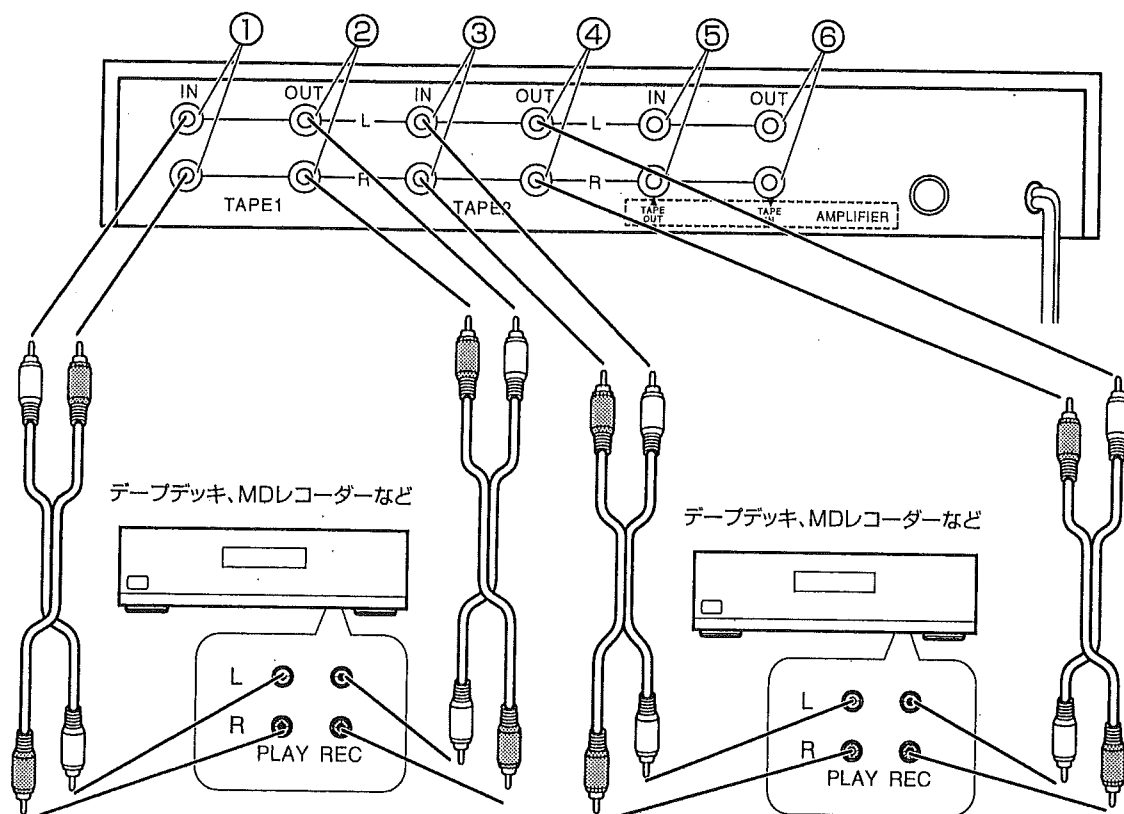
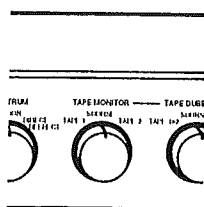
① すべての機器の電源が切れていることを確認します。
② 接続に間違いがないか12ページを参照して確認してください。
③ 接続に間違いがないことを確認したら各機器の電源を入れます。このとき901SSイコライザーにテープデッキが接続されている場合は、イコライザーに接続されているデッキの電源は切れたままにしておいてください。
④ ステレオシステムを通常どおり動作させてみます。音源は、CDでも、チューナーでもかまいません。
⑤ アンプのBALANCE(バランス)コントロールを操作して、左右のチャンネルが正しく接続されていることを確認します。
⑥ プリメインアンプのプロセッサー(アダプター、エフェクター、イコライザー等)ON/OFF スイッチをイコライザーが効くように設定します。
⑦ 901SSイコライザーフロントパネルのテープモニタースイッチのつまみを回してテープのモードにします。このとき、音が出なくなり、もう一度テープモニタースイッチのつまみを回してSOURCEに切り替えて音が出ればイコライザーが正常に接続されています。
⑧ 以上でテスト終了です。問題がなければ通常どおりステレオシステムを操作してお楽しみください。

B-2 プリメインアンプ2（テープ端子を使用）の場合

① すべての機器の電源が切れていることを確認します。
② 接続に間違いがないか13ページを参照して確認してください。
③ 接続に間違いがないことを確認したら各機器の電源を入れます。このとき901SSイコライザーにテープデッキが接続されている場合は、イコライザーに接続されているデッキの電源は切れたままにしておいてください。
④ ステレオシステムを通常どおり動作させてみます。音源は、CDでも、チューナーでもかまいません。
⑤ プリメインアンプのテープモニタースイッチをイコライザーが接続してあるテープ端子側に合わせます。
⑥ アンプのBALANCE(バランス)コントロールを操作して、左右のチャンネルが正しく接続されていることを確認します。
⑦ 901SSイコライザーフロントパネルのテープモニタースイッチのつまみを回してテープのモードにします。このとき、音が出なくなり、もう一度テープモニタースイッチのつまみを回してSOURCEに切り替えて音が出ればイコライザーが正常に接続されています。
⑧ 以上でテスト終了です。問題がなければ通常どおりステレオシステムを操作してお楽しみください。

C AVアンプの場合

① すべての機器の電源が切れていることを確認します。
② 接続に間違いがないか14ページを参照して確認してください。
③ 接続に間違いがないことを確認したら各機器の電源を入れます。このとき901SSイコライザーにテープデッキが接続されている場合は、イコライザーに接続されているデッキの電源は切れたままにしておいてください。
④ ステレオシステムを通常どおり動作させてみます。音源は、CDでも、チューナーでもかまいません。
⑤ アンプのBALANCE(バランス)コントロールを操作して、左右のチャンネルが正しく接続されていることを確認します。
⑥ 901SSフロントパネルのテープモニタースイッチのつまみを回してテープのモードにします。このとき、音が出なくなり、もう一度テープモニタースイッチのつまみを回してSOURCEに切り替えて音が出ればイコライザーが正常に接続されています。
⑦ 以上でテスト終了です。問題がなければ通常どおりステレオシステムを操作してお楽しみください。

テープデッキの接続

●イコライザーのテープモニター・スイッチの各ポジションの働きは次の通りです。

(a)SOUSE

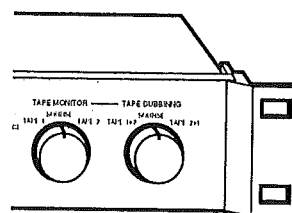
TAPE OUT端子(⑤)から入る信号がTAPE1、TAPE2両方の出力(OUT)端子(②、④)に出ています。入力(IN)端子(①、③)は両方とも動作していません。

(b)TAPE1

TAPE1の入力端子(①)が生きて、TAPE2の入力端子(③)は動作しません。

(c)TAPE2

TAPE2の入力端子(③)が生きて、TAPE1の入力端子(①)は動作しません。

●イコライザーのテープモダビング・スイッチの各ポジションの働きは次の通りです。

(a)SOUSE

TAPE1とTAPE2に同時に同じソースを録音したい場合はここにセットしてください。

(b)TAPE1▶2

TAPE1からTAPE2へダビング録音をしたい場合(この録音をモニターとして聞きたいときはテープモニター・スイッチをTAPE1にします)。

(c)TAPE2▶1

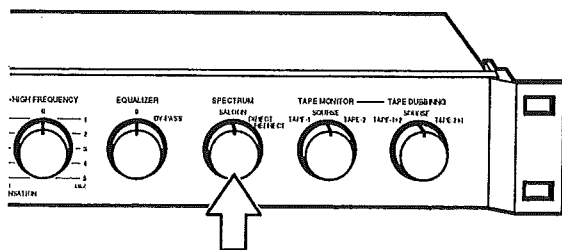
TAPE2からTAPE1へダビング録音をしたい場合(この録音をモニターとして聞きたいときはテープモニター・スイッチをTAPE2にします)。

操作手順

1 イコライザーの電源コードを電源に接続します。

2 電源スイッチを "ON" にします(その他の機器の電源が入っていることを確認)。

3 イコライザーがテープモニター回路に入れられている場合は、プリアンプまたはメインアンプのTAPE MONITORスイッチが "ON" であることを確認します。

4 アンプやミキサーに接続されている音源を聴く場合の各コントロールは下図のようになります。

スピーカーの設置方式
に合わせる

5 テープデッキを聴く場合

a:テープデッキがプリアンプまたはプリメインアンプのTAPE端子につなげられている場合は**3**の状態のままプリまたはプリメインアンプの入力セレクター・スイッチをTAPEにセットします。

b:テープデッキがイコライザーのTAPE1端子につなげられている場合はテープモニター・スイッチをTAPE1に、TAPE2端子であれば、テープモニター・スイッチをTAPE2にセットします。

スピーカーのお手入れについて

通常は、柔らかい布で乾拭きしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤を水で薄めた液に柔らかい布を浸し、よく絞ってから汚れを拭き取り、その後乾いた布で拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコール、化学薬品を使用すると表面が侵されたり、文字が消えたり、外装ムラになることがあります。また、スプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。

故障かな？と思ったら

症　状	原　因	処　置
・スピーカーから音がでない。	・スピーカーケーブルが外れているか、接触不良および断線。	・スピーカーケーブルを交換します。
	・スピーカーが故障している。	・お買上になった販売店にご相談ください。
	・アンプの電源が入っていない。	・アンプの電源を入れてください。
	・アンプの音量が最小になっている。	・音量の調整をしてください。
	・アンプが故障している。	・アンプを交換します。
・スピーカーの音に迫力がない。	・イコライザーの電源が入っていない。	・イコライザーの電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	・機器の接続を間違えている。	・この説明書をもう1度見ながら正しく接続し直してください。
	・アンプの出力端子とイコライザーの入力端子を接続しているオーディオピンケーブルが繋がれていないか、接触不良および断線。	・オーディオピンケーブルを交換します。
	・イコライザーの出力端子とアンプの入力端子を接続しているオーディオピンケーブルが繋がれていないか、接触不良および断線。	・オーディオピンケーブルを交換します。
	・イコライザーが故障している。	・イコライザーを外して再生してみて音が再生されればイコライザーの故障が考えられます。お買上になった販売店にご相談ください。
	・音源とアンプの接続に問題がある。	・アンプの説明書をもう1度見ながら正しく接続し直してください。
	・イコライザーに信号がかかっていない。	・アンプとこの説明書をもう1度見ながら正しく接続しイコライザーがかかるようにセットし直してください。
	・スピーカーケーブルの極性を間違えている。	・正しくつなぎ直してください。

仕　様

■スピーカー

ユニット構成	11.5cmフルレンジドライバー×9
再生周波数帯域	30Hz～18kHz
インピーダンス	8Ω
許容入力	270W(rms IEC268-5) ピンクノイズ(30Hz～18kHz) 700W(peak)
入力端子	スクリュータイプ
サイズ	614(W)×326(H)×330(D)mm
重量	19.5kg(1本)

■イコライザー

入力インピーダンス	100kΩ
出力インピーダンス	1kΩ
出力レベル	3V
入出力端子	RCAピンジャック
電源電圧	100V、50/60Hz
サイズ	483(W)×58(H)×284.5(D)mm
重量	3.6kg

保　証

保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

ボーズ株式会社
http://www.bose.co.jp/
〒150-0044　東京都渋谷区円山町28-3　渋谷YTビル　TEL　03-5489-0955

●仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。
●弊社取扱以外の製品については、保証の責任を負いかねますのでご了承願います。

OM-0024
00·10-0.1K-C·1(I-M)